



スポーツ少年秋田

AKITA JUNIOR SPORTSCLUBS ASSOCIATION

発行／秋田県スポーツ少年団 秋田市八橋運動公園1-5 秋田県スポーツ科学センター2F ☎018-866-3916

平成30年度のスポーツ少年団の事業が、県内外及び海外（ドイツ）で各種開催された。競技大会や交流事業において、スポーツや研修、集団生活を通して交流を深めながら様々な体験を重ねた。

第55回秋田県スポーツ少年大会兼ジュニアリーダースクール

- 期 日 7月27日～29日
- 会 場 仙北市 田沢湖スポーツセンター
- 参加者 小学5年～中学生71名、リーダー12名
引率指導者8名（各市町村より）
- 概 要 野外活動やスポーツ、集団生活等を通して2泊3日の研修を行った。8つの分団に分かれ、運動会や野外炊飯等に取り組みながら交流を深めた。県リーダー会が各種プログラムを立案、運営し、リーダーとしての研鑽の場にもなった。

主なプログラム

レクリエーション、歌・ダンス、講義（スポーツ少年団、リーダーについて）、運動会、一輪車、野外炊飯、キャンドルファイヤー、まとめ（寄せ書き等）

柴田結愛乃（小5）能代北バレーボール

一番楽しかったのは野外炊飯です。8人の力を合わせ、びっくりするほどおいしいカレーをつくることができました。一番学んだことはリーダーについてです。どんなリーダーがよいか、みんなで見つけることができました。

池田 粹己（小6）大潟村複合

交流を深めたレクリエーションゲーム、歌やダンス、キャンドルファイヤーが楽しかったです。このリーダースクールで、友達との交流を深め、リーダーについて知ることができました。

藤邑 晃暢（小6）きたうらアクア

仙北市から一人だけの参加だったので最初は不安でしたが、徐々に友達ができ信頼関係ができました。1日目、寝るとき楽しくて全く眠れませんでした。睡眠時間が短いと次の日ががんばれないので少し眠りました。運動会は最下位でしたが一番楽しめました。3日間、ほんとうに楽しかったです。

参加者の感想

飯尾 月葉（中1）にかほ市リーダー会

分団のみんなと協力して勝ち取った運動会の優勝や野外炊飯のカレーは、いい思い出となりました。講義では、感謝することやフェアプレイについて学びました。

体調を崩した人に気づけず分団長としてふがいない思いをしましたが、その他のことは仲間や指導者、リーダーに助けてもらいながら役割を果たすことができたと思います。



参加団員のアンケートより（○の数字は順位）

- 楽しかったプログラム 1日目 ①レクゲーム、②歌・ダンス、③アイスブレイク（自己紹介、ゲームなど）
2日目 ①野外炊飯、②運動会、③キャンドルファイヤー
- リーダーの印象 ①元気、②やさしい、③テキパキと動いている、④明るい

第49回東北ブロックスポーツ少年大会

- 期 日 7月30日～8月1日
- 会 場 青森県 公立小川原湖青年の家(東北町)
十和田湖(十和田市)

- 参加者 中高校生団員37名
青森10名、福島22名、秋田2名、山形3名
団 員：大谷 要、桐越至恩
指導者：浅野 満
(団員、指導者とも能代ジュニア陸上競技クラブ)

●概 要 十和田湖や奥入瀬渓流など開催地の豊かな自然を生かしたプログラムを通じ、東北4県から参加した中高生団員が交流を深めた。運営は十和田市スポーツ少年団が主管となり、十和田市子ども会育成連合会の高校生がリーダー役として協力し活躍していた。

主なプログラム

- 1日目：開会式、オリエンテーション、火おこし、野外炊飯、自由交流
- 2日目：奥入瀬渓流散策、十和田湖カヌー体験、キャンプファイヤー
- 3日目：スポーツ活動(キンボール)、さよなら交流

参加者の感想

仲間との信頼

大谷 要(中1)

この大会で心に残ったことは奥入瀬渓流散策とカレー作りです。

奥入瀬渓流散策では、木漏れ日がどれもきれいで、川の流れる音がとても落ち着きました。また、この体験で、森の基となっているのはコケで、そこから植物が進化していくことを知りました。

カレー作りでは、僕は火起こし、他の人は材料を切る、米をとぐなどの役割をしました。火はとても熱くて興奮しました。トロツとしたとてもおいしいカレーをつくることができ楽しかったです。自分の好きなこと(役割)をしても協力をし合えばうまくいくんだと実感しました。

これからは、仲間と協力しあいながら活動していき、自分の個性を出しながら結果に結び付けていきたいです。



団結・協力の大切さを知った交流大会 桐越至恩(中1)

今回の交流会では、青森の自然に触れながら、他県の参加者と協力していろんな活動に取り組むことができました。

印象に残っている活動はキャンプファイヤーです。女神から与えられた火が全員のトーチ棒に移っていく様子がきれいだったし、歌を歌ったり、それぞれの班で考えた出し物を発表したりして、一番他県の人達と交流することができました。

大変だと感じたことは火起こしです。近づくだけでも、すごく熱くて一人ではできない作業だと実感しました。昔の人の生活などを想像し、その大変さと現代に生まれたことがどれだけ幸せなことなのかを改めて知ることができました。

このような経験を活かして、今後の学校生活や部活、スポーツ少年団活動に取り組んでいきたいです。またこのような交流に積極的に参加したいです。



東北ブロックスポーツ少年団交流大会(競技別)等

○サッカー

7月15日～16日 山形県
山形県総合運動公園

参加団 スポルティフ秋田スポーツ少年団(秋田市)
FC角館セレジエスタルスポーツ少年団(仙北市)

○全国軟式野球東北Iグループ代表決定大会

7月8日 秋田県
鹿角市城山野球場

参加団 大湯ファイターズスポーツ少年団(鹿角市)
旭栄野球スポーツ少年団(横手市)

第56回全国スポーツ少年大会

- 期 日 8月2日～5日
- 会 場 茨城県 行方市、鹿嶋市、潮来市
宿泊所 県立白浜少年自然の家（行方市）
- 参加者 167名 秋田県より6名（能代市）
団 員：笹村詩織、武田彩楓、雄鹿乃野、
佐藤奏汰、柴田倅明、山田力丸
指導者：畑山幸代（市本部常任委員）

● 概 要 『みんなの笑顔と笑顔が出会う時inいばらき』を大会テーマに、地域特性のあるスポーツや障がい者スポーツの体験等を通して、全国の仲間と交流を深めた。2020東京オリンピックの会場となるスタジアム見学も印象深いものとなった。

主なプログラム

- 1 日目：開会式、旗づくり、班別交流
- 2 日目：カシマサッカースタジアム、鹿島神宮見学
野外炊飯
- 3 日目：グラウンド・ゴルフ、ボートエルゴメーター、
車いすバスケットボール、卓球バレー、ブ
ラインドサッカー、アンプティサッカー、キャン
プファイヤー
- 4 日目：さよなら交流、閉会式

参加者の感想

笹村詩織（中2）能代バドミントン

たくさんの人と友達になる、あいさつをすることを目標にこの大会に参加し、県外の人とたくさん仲良くなることができました。

普段は体験できない障がい者スポーツの車いすバスケは、こぎながら動くので難しかったけど、チームで協力し勝つことができました。

オリンピックが開催されるスタジアム見学もよい経験となり、大切な思い出となりました。

武田彩楓（中2）能代バドミントン

障がい者スポーツは4種目体験し、みんなで声をかけながら協力した卓球バレーが一番楽しかったです。

私はこの大会で積極的に話しかけることを目標にしました。最初はうまくできませんでしたが、最後には達成することができました。この大会で学んだことを、今後の生活に活かしていきたいと思います。



カシマサッカースタジアム



県別記念撮影

雄鹿乃野（中1） 淳西小クラブ

初めての全国大会でしたが、自分からたくさん話しかけたら、素の自分を出せるほどみんなと仲良くなることができました。

スポーツではボート漕ぎと車いすバスケが楽しかったです。来年も行けたらいいと思います。

柴田倅明（中1） 青雲柔道

カシマサッカースタジアムでは、生で見るグラウンドの大きさにびっくりしました。

キャンプファイヤーでは、のどが痛くなるほど歌ったり、ゲームで叫んだりしました。

最終日のさよなら交流では、色紙や記念Tシャツにサインしあい、よい思い出ができました。

山田力丸（中1） 青雲柔道

初めての全国大会は、行く前からとても楽しみにしていました。初日の自己紹介や班別活動の旗づくりで、すぐに仲良くなりました。部屋で話をするのも楽しかったです。

最高の仲間、最高の全国大会でした。別れがとても悲しくなりました。

佐藤奏汰（中1） 青雲柔道

県スポーツ少年大会の経験から、この全国大会には自分から参加しました。茨城県の文化に触れることもでき、車いすバスケットや卓球バレーなどを通しオリンピックやパラリンピックへの理解も深められました。自分から話しかけるようにしたので友達も増え、成長した4日間でした。



野外炊飯



アンプティサッカー



ボートエルゴメーター



ブラインドサッカー



キャンプファイヤー



さよなら交流

第45回日独スポーツ少年団同時交流 派遣事業

- 期 日 7月31日～8月17日
- 受入先 スポーツユージェントシュレスヴィヒ=ホルシュタイン
- 参加者 東北Iグループ（秋田県から1名）
団員8名、指導者1名、計9名

主なプログラム

最初にフランクフルトで日本団の全体プログラムを実施。その後、ホームステイを基本とした地方プログラムで、スポーツや研修、観光等を体験した。どのプログラムも現地の同年代のスポーツクラブの青少年と過ごし、国際交流を深めた。

ディスカッションテーマ「スポーツにおけるインクルージョン」

ドイツ交流で学んだ事

にかほ市リーダー会スポーツ少年団 矢部 太陽

今回日独同時交流に参加し、とても濃い時間をドイツの方々と共に過ごしました。日本では体験することが難しいこともドイツで体験することができ、とても有意義な時間を過ごせたと感じています。

フランクフルト国際空港に着いた時のことを今でも鮮明に覚えています。あの時の私はドイツに滞在することの楽しさと、少しの不安を抱いて飛行機を降りました。荷物を受け取ったあとすぐにドイツ団の方とお会いし話をすることが出来ました。幸運にも私は以前にかほ市のプログラムでアメリカに行く機会が与えられ、他の団員よりも緊張せず話せました。この場で活かすことができよかったですと思っています。ドイツではドイツ語が主ですが英語でも会話ができる方がほとんどで、年配の方とも話することが出来たのですごいなと感じました。私は今もまだ何人かドイツでできた友達とLINEを通して繋がっています。彼らと会話をするのはとても大変ですがいい英語の勉強になっています。学校で習わないことなども使ってくるのでとても楽しいです。その場を通し自分をもっと高めていけるように努力したいと思っています。

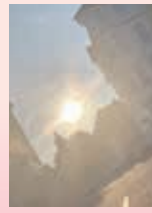
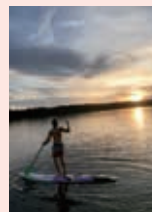
また、私はスポーツやホームステイ、ディスカッションなどを通し文化の違いを肌で感じる事ができました。特に違いを感じたのは今回のテーマで



あったインクルージョンについて話し合いをした時でした。ドイツの方達は私たちよりもインクルージョンについてより深い理解と関心

を持っていて私たちにとってすごく良い経験になったと思います。私たちはインクルージョンということに対してどちらかというとネガティブな考え方をしていました。実際日本ではドイツと違い障がい者の方のバックアップが十分とはいえません。ドイツではバリアフリーのスポーツ施設、公共施設がとても多くあります。それによりドイツでは障がい者の方のことを身近に感じることができます。私たちはドイツで電車移動することがたくさんありましたが、よく車椅子の方を電車の中で見かけました。日本ではあまり見ない光景だと思います。しかしドイツではそれが当たり前で、当たり前のように他人の方が手伝っています。それを見て心が温かくなると同時に私も見習うべき事だと感じました。

今回のドイツ訪問では学ぶことがとても多くありました。これからのリーダー会活動、また普段の生活にも活かすことができたらと思っています。またドイツに行ける機会があれば、その機会を逃さず十分に役に立



第41回秋田県スポーツ少年団(競技別)交流大会

夏季は4種目において、競技を通じて交流を深めた。(※成績は団体のみ掲載)



- サッカー 6月9日～10日(TDK総合スポーツセンター)
- 参加数 32団、576名
- 優勝 秋田ロク・フットボールクラブ



- 軟式野球 8月16日～19日(さきかけ八橋球場)
- 参加数 16団、337名
- 優勝 山内小学校クラブ



- バレーボール 8月4～5日(県営トレーニングセンター)
- 参加数 51団、664名
- 優勝(各ブロックごと) ④港北、⑧雄和、③仁井田、④白神、⑤潟上、⑦西目、⑥高清水、⑨小友、①IVC-Kids、②本由、⑫HIRAKA、⑬美郷、⑭中仙、⑮土崎、⑯東、⑰きたうら



- 柔道 7月29日(横手武道館)
- 参加数 28団、225名
- 優勝 中学生 男子 御野場石川道場、女子 小友唯心塾
小学生 男子 小友唯心塾、女子 角館柔心クラブ



お弁当の配達承ります。

会議、研修会、各種スポーツ等

630円より様々な種類のお弁当をご用意しております。

※配達には10個からとさせていただきます。

歓迎会、送別会

(ご予算に応じて承ります。)



青少年交流センター
有限会社 県庁食堂

レストランユースパル

秋田市寺内神屋敷3-1
TEL. 018-880-2310
FAX. 018-880-2319



目ざせ世界の頂点!



がんばる
ジュニア
応援します



あらゆるニーズにお応えする
松原印刷社
〒010-0951 秋田市山王七丁目5-29
TEL 018-862-8760(代)
FAX 018-863-0005
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>
E-mail:matsubara@matsubarainsatsu.co.jp

私たちの団

各団の一行目は団名(市町村)、種目、団員数(学年)、活動場所、代表指導者

飯島ラグビースクールスポーツ少年団(飯田市)ラグビー 18名(小1~小6) 飯島小学校グラウンド 高森均
秋田市立飯島小学校 6年 泉和玖

僕たち飯島ラグビースクールは、男子16名、女子2名、計18名で活動しています。春から秋にかけては外でラグビーの練習を中心にし、みんなで声をかけあい、全県優勝を目指して一丸となってがんばっています。冬になると、体育館でタグラグビーの練習をしています。昨年度、先輩達がサントリーカップ東北大会に出場しているのですが、プレッシャーはありますが、それに負けることなく、プレーにみがかきかけ、連続出場をしたいと思います。

他のチームに比べて人数は少ないですが、これからも仲間たちと協力して、チームワークを大切にし、一つ一つの練習や試合で全力でプレーしていきたいです。



美郷剣道スポーツ少年団(美郷町) 剣道 11名(小5人・中5人・高1人) 美郷中央体育館 高橋辰巳
六郷小学校 6年 北村真優

私たちの町には剣道を教える道場がありません。だから剣道をや、たことも見たこともありませんでした。スポ少かできて小学年にな、てからは始める子かほとんどです。週に二回活動していますが、経験がない子どもたちに先生方はていねいに指導してくれます。美郷剣道スポ少では、正しい剣道を身につけなさい」と言われています。基本を大切にけいこしていただきます。団員が少なく大会に参加できないこともありますか、入賞できるようがんば、ています。団員が増えるよう友だちをさそ、たりしていますか、なかなか団に加入してくれなくて残念です。団員が増えてくれることを願、てこれからも続けたいです。



合川ニエースターズ(北秋田中) 野球 24名(小3~小6) 合川小グラウンド 相馬孝明
合川小学校 6年 木村悠人

合川ニエースターズは、秋田市の歴史ある合川地区の3つの小学生が、合川地区の環境の中で、合川小学校の野球チームです。合川地区は、環境がきれいで、活動しやすいです。冬は、雪が降り、寒いですが、野球は、一年を通して、練習を続けたいです。合川ニエースターズは、合川地区の環境の中で、合川小学校の野球チームです。合川地区は、環境がきれいで、活動しやすいです。冬は、雪が降り、寒いですが、野球は、一年を通して、練習を続けたいです。



汚れ

消しゴムの汚れが目立たず、キレイに使えます。

消しゴムモノ PE01 ブラック 63円 (本体価格60円)

汚れに強いブラックボディ

消しクス

紙面上の消しクスが見やすく、処理が容易です。

消しゴムモノ PE04 ブラック 105円 (本体価格100円)

MONO

株式会社トンボ鉛筆
<http://www.tombow.com>

夢を支える応援団

スポーツ少年団を支える指導者・育成母集団の声

子供達に野球が出来る環境を

小友ジグザグ野球クラブ

監督 鈴木 隆 則

小友ジグザグ野球クラブは、男子14人、女子3人で活動しており、その内6年生は8人です。

学童野球は、毎年初夏に大きな大会があり、その大会で優勝することを目標に日々の厳しい練習を積んでいます。今年は残念ながら敗れてしまいました。

様々な大会が終わり、6年生が引退すると、次年度以降は人数が少なく、近くと同じ条件のスポ少と合同チームを組むに至りました。今夏の新人戦から、合同チームで出場し、地区優勝し、県大会に向けて頑張っております。

近年、各チームにおいても、少人数になり合同チームになる団が少なくありません。私たち指導者と、父兄の方々も児童達に野球が出来る環境を作ってあげたいのは共通の考えですし、中・高と野球を続け、将来の優秀な野球選手を秋田から多数の輩出することを祈願しております。



子どもたちを支える親の役割とは

五城目女子ミニバスケットボールスポーツ少年団

親の会 会長 大石 靖 宜

五城目女子ミニバスは、6年生3人を中心に、16名の団員で活動しています。体育館を走り回り、大粒の汗をかきながら、夢に向かってバスケットを楽しんでいる子どもたちの姿にいつも元気をもらっています。

子どもたちが、日々の活動を健康的に行うことができるよう、指導者と心をひとつにして、親の会も子どもたちをサポートしていますが、私たちが率先して心がけていること、それは活動しやすい環境を整えてあげること、勝利至上主義にならぬよう、おおらかな気持ちで子どもたちの頑張っている姿を応援してあげることです。

競技性ゆえに、勝敗はつきものですが、勝った負けたで一喜一憂していると、自然に団の環境が悪くなり、予期せぬ出来事さえ起こりかねません。子どもたちが頑張っている姿を素直に応援し、成長する姿に拍手を贈る。一番大切なことだと思います。

失敗したっていいから、瞬間を大切に学び続けること、いろんな活動の中から気づくこと、人生に大切な種がたくさんあるのに、目先の勝利にとらわれないこと。これからも子どもたちの成長に豊かさを感じられるよう、親としての役割を大切にしたいと思います。



お客様の「困った」を全力で解決します！

INEX

-Since 1948-
株式会社

アイネックス

<http://www.inecx.co.jp>

パソコン専門店

COM

- 本社：〒010-0063 秋田市牛島西1-4-5
- 建装事業部：〒010-0063 秋田市牛島西1-4-5
- IT事業部：〒010-0041 秋田市広面字鍋沼37
- 能代営業所：〒016-0864 能代市字鳥小屋32-5
- 大仙営業所：〒014-0047 大仙市大曲須和町2-2-20

- Tel 018-887-5560 Fax 018-835-5666
- Tel 018-836-0330 Fax 018-835-5666
- Tel 018-831-3131 Fax 018-831-2211
- Tel 0185-55-3780 Fax 0185-55-3750
- Tel 0187-62-6630 Fax 0187-62-6610



平成 29 年度日本スポーツ少年団顕彰

日本スポーツ少年団より、功績のあった市町村スポーツ少年団、登録指導者、退任指導者に贈られる賞で、平成 29 年度は 2 団体と個人 10 名が受賞した。秋田県スポーツ少年団表彰とともに、平成 30 年度委員総会の席上で伝達された。

○市町村

大潟村スポーツ少年団、東成瀬村スポーツ少年団

○指導者

(故)佐々木政義(横手市)、佐藤政博(男鹿市)、
須田俊夫(秋田市)、小松正美(秋田市)、小川敏行(能代市)、
石川 誠(大仙市)、舘岡 昭(潟上市)

○退任感謝状

(故)児玉一彦(大潟村)、(故)佐々木政義(横手市)
(故)佐藤清克(にかほ市)

平成 29 年度秋田県スポーツ少年団表彰

○功労者

高橋道雄(秋田市)、保坂政美(秋田市)、金持英一(秋田市)、
石井慎二(能代市)、渡部純悦(能代市)、佐藤昭二(大館市)、
戸田恒夫(大館市)、前田貞一(湯沢市)、高橋信幸(大仙市)、
畠山 隆(大仙市)、古谷政信(大仙市)、三浦雅幸(潟上市)、
齊藤暢悦(にかほ市)、橋本健治(美郷町)

○優秀指導者

永井重春(秋田市)、藤原政利(横手市)、佐々木 純(湯沢市)

○優秀単位団

牛島男子ミニバスケットボールスポーツ少年団(秋田市)
勝平柔道スポーツ少年団(秋田市)
飯島ラグビースクールスポーツ少年団(秋田市)
淳西小クラブスポーツ少年団(能代市)
浅内スポーツ少年団(能代市)
淳城南小学校野球部スポーツ少年団(能代市)
淳南レジェンドスポーツ少年団(能代市)
淳南フェアリーウイングススポーツ少年団(能代市)

○優秀母集団

ニッ井野球スポーツ少年団親の会(能代市)
ニッ井 BBC スポーツ少年団保護者会(能代市)
須川スポーツ少年団(湯沢市)
三関ミニバスケットボールスポーツ少年団(湯沢市)



東京 2020 応援プログラム スポーツ少年団 全国一斉活動

今年度も日本スポーツ少年団では 2020 東京オリンピック・パラリンピック・ムーブメントの一環として、全国一斉に社会貢献活動を実施している。

活動内容は清掃・美化活動、交流活動、障がい者スポーツ、スポーツボランティア、平和学習などがあるが、秋田県スポーツ少年団ではクリーンアップ活動に統一し昨年度は取り組んだ。その結果、全国で最も多い参加があり注目されている。

「スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献する」というオリンピックの開催理念の一つを实践するよい機会となるので、登録団員や指導者を始め関係者や賛同する地域の方々も誘って、子どもたちの心に残る体験を目指してほしい。

【参加の仕方】

- ・活動期日 平成30年12月31日まで
- ・事前申請 最終は平成30年10月31日※
- ・実施報告 最終は平成31年1月7日

※活動期日、事前申請期間の区分は開催要項でご確認ください。

各市町村本部からの案内に従い、日本スポーツ少年団のオンラインシステムで申請・報告してください。

日本スポーツ協会(旧日本体育協会)ホームページ
<http://www.japan-sports.or.jp/> ⇒ スポーツ少年団
⇒ スポーツ少年団全国一斉活動 ⇒ 活動申請フォーム
<http://www.japan-sports.or.jp/club/tabid1100.html>



第1回ジュニアスポーツフォーラム

(公財)日本スポーツ協会等が主催する研修会が、6月17日に東京都のホテルグランドパレスにおいて開催された。

これは、昨年度まで開催されていた「スポーツ少年団全国指導者研修会」、「全国リーダー連絡会」、「ジュニアスポーツ安全・安心フォーラム」を統合した事業で、全国のスポーツ少年団及びジュニアスポーツの指導者、関係者が一堂に会する機会となった。

秋田県からは県本部役員や指導者協議会、リーダー会役員らが参加し、各分野の最新研究や実践発表、話題提供、意見交換に耳を傾けた。

【概要】

(1)特別講演「今後の地域スポーツ体制の在り方」

演者：友添秀則(早稲田大学スポーツ科学学術院教授)

(2)分科会 A：地域スポーツクラブとしての活動、B：子供の運動習慣の定着に向けて、C：これからのスポーツ指導者に求められること、D：人々をつなぐスポーツ少年団リーダー活動、E：スポーツ団体における処分等の適切な手続き

- ・参加者 福原幸成、小笠原重夫、高橋優功、畑山幸代、村山一郎、堀川永蔵、村岡明正、小畑治隆、矢部太陽



※「スポーツ少年秋田」は、ホームページ(<http://www.akitaikyoo.or.jp>)でもご覧いただけます。